

2022年度・後期 受講生募集

出願手続きは
こちらより
↓↓↓



授業日程 (15回のうち5回はオンライン、8回は対面、2回はオンライン+対面)

第1回(9/30)：イントロダクション(伊勢田・全員) **オンライン**

・観光から考える文化の消費と開発(タタルチュック)

第2回(10/7)：「古都京都」は何のために作られたか? **対面**

第3回(10/14)：文化は観光のために消費されるものなのか? **対面**

・文化財のある場所(平岡)

第4回(10/21)：フェノロサと明治政府それぞれの欲望 **オンライン**

第5回(10/28)：文化財はどこにあるべきか **対面**

・研究調査における研究者の欲望(田多井)

第6回(11/4)：「性的マイノリティ」研究における研究者の欲望 **対面**

第7回(11/11)：研究者の欲望と説明責任 **対面**

・宗教と言語(平出)

第8回(11/18)：経験と言葉 **オンライン**

第9回(11/25)：宗教における経験の言語化 **対面**

・欲望にかんする哲学のテキストを読む(樽田)

第10回(12/2)：欲望のあり方と「私」 **対面**

第11回(12/9)：欲望のあり方と「社会」 **オンライン**

・レポートの書き方とまとめ(長岡、小林)

第12回(12/16)：レポートの書き方(長岡) **オンライン**

第13回(1/6)：レポート指導(長岡) **オンライン 対面**

第14回(1/13)：レポート発表(小林) **オンライン 対面**

第15回(1/20)：まとめ・総括(小林) **対面**

この授業では、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者たちが、各自の研究内容に則してリレー形式で講義を行います。私たちは毎日さまざまな文化に触れ、文化的な生活を営んでいます。世界的な感染症の流行により日常生活が大きく変化し、価値観が多様化する現代において、私たちは自らが営んでいる「文化」について、一度考え直してみる時期にあるのではないのでしょうか。文化は人間の叡智の結晶であると同時に、人間の「欲望」の反映でもあります。普段享受しているさまざまな文化を、その営為の源にまで遡って問い直すことは、私たちがよりよく生きてゆくために必要な作業ではないでしょうか。

こうした問題意識から、本授業では「文化」とそれを生み出す人間の営みを、社会学・現代史学・哲学・宗教学・キリスト教学といった、人文学の多様な立場から検討します。人間の営みの結晶として生み出された文化財や文化遺産、文化的営みを規定する言葉や学問、さらに文化を生み出す原動力としての私たち自身の「欲望」の問題。異なる分野・異なる切り口からアプローチしてゆくリレー講義を通じて、問題の多角的な捉え方や柔軟な思考を養います。

各回の授業では、受講生同士のグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを積極的に活用し、授業で学んだ知識を自分自身の関心と結びつけながら主体的に考察する力を養うことも、併せて目的としています。また、本授業はオンライン授業と対面授業とを組み合わせた「ハイブリッド型授業」にて実施します。対面とオンラインの双方の特性を活かした多様な学びを経験する機会となるでしょう。

人文学の多面的展開



— 文化の原動力としての欲望 —

2022年09月30日～2023年01月20日 毎週金曜日 18:10～19:40

(オンライン授業は **Zoom** にて、対面授業は **キャンパスプラザ京都** にて)

担当講師

京都大学文学研究科 教授 伊勢田 哲治

京都大学非常勤講師 田多井 俊喜

京都大学非常勤講師 平岡 久代

関西学院大学非常勤講師 平出 貴大

神戸大学非常勤講師 マルチン・タタルチュック

龍谷大学客員研究員 樽田 勇樹

京都産業大学非常勤講師 長岡 徹郎

甲南大学非常勤講師 小林 敬

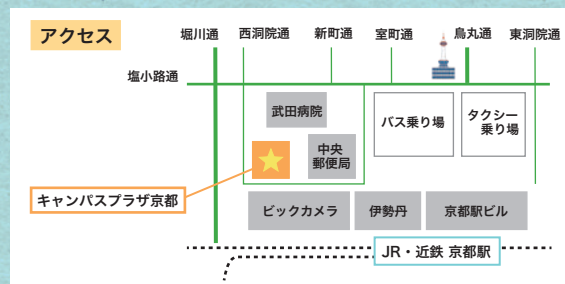
出願手続き・科目詳細の確認は以下の URL or 左上の QR コードから単位互換・京カレッジポータルサイトにアクセスしてください <https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

履修登録期間：前期：3月下旬～4月上旬

定員：30名

後期：9月上旬～9月中旬

(詳しくは所属大学へ)



過去の講義の情報

▶ <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/consortium/index.html>

連絡先：京都大学文学研究科教務掛 (TEL 075-753-2709)